

第2節 5カ年の振り返り（総括）

1. 総括表の作成と目的について

（1）目的

第1次活動計画において理念や目標を掲げ、具体的な事業や活動（実施計画）に基づき、取り組みを進めてきました。

第1次活動計画が最終年となり、今まで年度ごとに行ってきた自己評価等を基に過去5年間の進捗具合や成果、課題等について振り返り、本計画へとつなげていきたいと考えました。

今回の自己評価の目的は、第1次活動計画で掲げた実施計画について過去の活動を自ら振り返り、本計画で継続するか、発展させるか、見直すか、廃止するのかについて判断し、その理由もあわせて各担当で記載しました。

こうした総括に基づいて、本計画の実施計画や基本目標について改めて整理をし、策定委員会で協議しまとめました。

（2）総括の方法について

具体的などころである実施計画を中心に総括を行いました。第1次活動計画の中で策定した当初に掲げた各計画の目標と「これまでの取り組み」と比べて、達成度や掲げた具体的な活動が適当であったかどうかについて、下記の表内の「目標の達成度欄」に該当する印をつけ、その「理由」を後の欄に記載しました。

・実施計画などにおける目標などの達成度

◎…目標を達成し、効果、成果をあげることができた

○…ある程度できた（進行中で、できたと思うものも含む）

△…取り組んだが、出来なかった

（取り組んだが、思った成果が得られていない、途中までしかできていないものも含む）

×…取り組みを進めることが困難だった

実施計画の達成度と理由を基に、本計画の中でも継続して行うのか、見直すのか、全く新しいものにするのか等、どのように進めていくのかについて、「本計画に向けて改善すべき点などについて」の欄に記載しました。本計画の策定にあたってどのようにつなげていくのかを各担当の視点で提案する形をとり、策定委員会等で協議、検討し、本計画としてまとめました。

(3) 総括表の見方について

これまでの活動状況を振り返り、策定した目標と比べて、以下の4つの印から該当する印をつけています。

◎…目標を達成し、効果、成果をあげることができた

○…ある程度できた

(進行中で、できたと思うものも含む)

△…取り組んだが、出来なかった。

(取り組んだが、思った成果が得られていない、途中でしかできていないものも含む)

×…取り組みを進めることが困難だった。

「目標の達成度欄」で付けた印の理由等を記載しています。

基本計画の柱	実施計画		これまでの振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由等	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
地域住民の参加と活動の推進	地域の担い手づくり活動	地域ボランティア養成講座、研修事業の開催	×	ふれあいサロン活動や見守り活動等地域や住民による活動や担い手が求められるが…	地域単位での養成事業は難しいものの、志ある人は多いので、その思いを地域の活性化…
	小地域福祉活動の推進と充実	ふれあいサロン活動の推進	◎	ふれあいサロン活動など小地域福祉活動に取り組む地域では定着化し、活動回数を増やしたり、新規対象の活動が行われる等拡充を…	地域のふれあいサロン活動を楽しみにしている利用者が増え、定着化し、広がっている。そうした中で、担い手側の意識として活動…
		小地域福祉活動助成金の交付	◎	年々活動する地域や活動が増える一方で、民生委員や…	民生委員・児童委員や自治会等が主催する活動の申請が増えた。住民交流…
		活動備品の整備・充実	○	参加者が気兼ねなく、交流、楽しめるゲーム等を整備し、地域や行事で活用できた。	地域に周知しふれあいサロン活動等小地域福祉活動の充実、活性化の一助として、貸出、活性化につなげる。適当なものがあれば、整備していく。

第1次活動計画の「目標達成度」における理由等を基に、次の計画の中で見直すのか、推進するのか等を踏まえた上で、どのような扱い、進め方をするのかを記入し、本計画の具体的な策定につなげました。

2. 総括表一覧

【基本目標1】安心して暮らせる地域(まち)づくり

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
地域住民の参加と活動の推進	地域福祉活動の担い手づくり	地域ボランティア養成講座、研修事業の開催	×	ふれあいサロン活動や見守り活動など地域や住民による活動や担い手が求められているが、志のある人は多いものの実際の活動につながるかというとなかなか難しい状況があり、当初目標していた地域単位での養成事業ができなかった。	地域単位での養成事業は難しいものの、志のある人は多いので、その思いを地域の活性化、安心して暮らせる地域の活動につなげられるようにしていきたい。ふれあいサロンの推進をしていく中で、活動状況を見極めて実施する。
	小地域福祉活動の推進と充実	ふれあいサロン活動の推進	○	ふれあいサロン活動等に小地域福祉活動に取り組む地域では定着化し、活動回数を増やしたり、新規対象の活動が行なわれるなど拡充をはかる所が増えた。また地域懇談会で他地域の状況を参考に新規に活動に取り組む所もあり、地域の状況にあわせた取り組みが充実してきている。	地域のふれあいサロン活動を楽しみにしている利用者が増え、定着化し、広がっている。そうした中で、担い手側の意識として活動のマンネリ化や担い手の高齢化で新たな人材の確保等、活動を維持、これから継続していく上での心配な材料がある。そのあたりの事を目を配って、停滞などしないよう実践している地域の関係者と意見を交わしながら、対策を検討し進めていきたい。
		小地域福祉活動助成金の交付	◎	年々活動する地域や活動が増える一方で、民生委員・児童委員が主催する事業や自治会の活動に関する申請が増えている。	民生委員・児童委員や自治会などが主催する活動の申請が増えてきた。住民交流を図る上で大事であるが、一過性の行事的な活動が強い。継続的で、地域生活支援的なものと分けて、行事的な活動の支援は共同募金を財源とする助成金の新設を提案する。、そうすることで共同募金事業の周知、地域への貢献が明確になり、活性化につながっていくと考えられるので、創設をお願いしたい。
		活動備品の整備・充実	◎	参加者が気兼ねなく、交流、楽しめるゲーム等を整備し、地域や行事で活用できた。	地域に周知しふれあいサロン活動等小地域福祉活動の充実、活性化の一助として、貸出し、活性化につなげる。適当なものがあれば整備していく。
福祉活動を推進するための体制づくり	区、自治会との連携	懇談会の実施	◎	進捗状況を確認する中間評価を進めるにあたって全地域を対象に懇談会を実施したところ、自身の地域で行われている福祉活動について意外と知らない人が多く、懇談会は活動状況や担い手の思いを把握してもらった貴重な機会となった。社会的な問題となっているので、見守り活動への関心や意識は高いものの、その思いを具体的な形で、継続的な体制、活動づくり、個人情報の問題を危惧して、前へ進めないところが多い印象だった。	区・自治会を巻き込んで自分たちの活動として意識された活動になるまで、丁寧に時間をかけて進めていかないといけない。活動の必要性や地域の特色、懸念される課題等説明や提案、意見交換が重ねられる懇談会は有効な手立てなので、適時開催していきたい。

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
福祉活動を推進するための体制づくり	区、自治会との連携	各種養成講座研修会を共催で開催	×	ふれあいサロン活動等小地域福祉活動を推進していく上で、分会長や福祉員、民生委員・児童委員等の役割の人以外の有志による担い手の確保、養成をはかるため、講座の開催を計画し区自治会の支援が必要と考えた。しかしながら自治会関係者の多くがこうした福祉活動が行われていることを知らず、また自治会行事準備や負担等の関係で共催でできるような状況ではなかった。	今、小地域福祉活動に取り組む地域において課題となっているのは、担い手の高齢化と人材の確保である。これからも続けて進めていくためには、地域の状況を把握して、必要に応じて、地域で活動してくれる人を養成する取り組みを活動の担い手の方と一緒に検討、実施していきたい。
		広報並びに啓発活動の推進	×	社協役員や民生委員・児童委員による福祉活動が、自治会関係者に知られていなかったが、懇談会等を通じて、活動や関係者の頑張りを知っていただき、地域からの補助や公民館の活用等の円滑な支援が得られるようになったなどある程度の成果はあった。	広報や回覧など区・自治会や地域住民に身近に届く手段を進めていきたいが、かける手間、負担等もあるため、小地域福祉活動の周知や研修会、懇談会等の取り組みを通じて小地域福祉活動の必要性や支援をお願いしていきたい。
	支部分会組織の基盤強化と意識の高揚	支部、分会単位での役員研修の開催	△	分会の数が多い支部では、役員同士の親睦や意識の高揚をはかるため、管轄外の研修を行っている。比較して分会数の少ないところは、会議等を行い、担当職員を招いて、活動についての情報や意見交換等を行っている。支部単位では地域の状況にあわせた形で実施されている。 役員の任期や準備の負担等でなかなか分会単位での研修は殆どできなかったが、近年取り上げられている高齢者の孤独化に伴う様々な問題への地域の活動に対する意識が高まり、本会が進める見守り活動について説明を求める地区や団体が多かった。	分会単位の実施については、申し出があった場合や課題が見えた際、その地域の関係者と話し合って必要に応じて進めていきたい。 福祉を推進していく上で、地域の果たす役割は大変大きいので、高まっている「絆」づくりやそのための活動を周知、実践につなげていくような取り組みを進めていく。
		当事者問題等の啓発並びに研修	×	本会の行事や活動支援以外に各自治会行事等様々な活動があつて、研修会を実施するための準備や調整ができなかった。	当事者と地域の接点がなかなかなく、災害時や緊急時の際に、地域が担い、期待される役割について、個々で理解していても、地域として具体的にどう動くか等、双方の思いや意見を交わす機会等がないため、こうした取り組みを進めていく。
	民生委員・児童委員との連携	懇談会の開催	◎	多くの民生委員・児童委員が、高齢者や子育て等精力的に取り組んでいるが、区・自治会の関係者が知らなかったり、援助を受けていないのに驚いた。懇談会を通じて民生委員・児童委員活動や福祉活動を知る貴重な機会となり、手立てがあると感じた。	身近な地域の相談役であり、多彩な活動に取り組む民生委員・児童委員の思いや経験を聞かせてもらい、関係を進めていくことは、地域福祉の推進する上では、貴重なパートナーであります。課題や意識を共有し、共に活動していくためにも、懇談会の実施は貴重な機会であるので、有効な形で適時実施していきたい。

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点などについて
見守り活動の推進	見守り活動推進に向けた体制づくり	見守り活動についての説明会の開催	△	「説明会」という形ではないが、支部の会合や懇談会で提案した活動内容や考えを説明し、啓発に努めた。	核家族化、高齢化が進むこれらにおいて、様々な成果をもたらす必須の活動である。地域へのつながりや安心を提供し、地域一体となって取り組むことで様々な効果がある。「説明会」という特別の形ではないが、推進テーマとして、研修や周知をはかり、地域のつながり、活性化を図っていく。
		モデル地域の選定と活動	△	本会計書の重点事業として取り上げた結果、市内3か所で、実施主体は異なるものの、地域レベルでの取り組みができた。	市の防災計画や自治会、福祉団体の意向があった場合に協力していきたい。今回の計画において取り組んだ地域のフォローをしていきたい。
		推進地域(地域見守り隊)の設置・立ち上げ	×	地域の中で様々な団体が協力し合って、見守りを目的とする組織体をつくることはかなわなかった。新たな組織をつくることは負担感もある。自治会ではたくさんある年間行事の開催や自治会ばなれが進み役員の確保などが難しく運営の際に抱えるさまざまな問題がある中で、必要性はわかっているものの、なかなか難しいというところが大半であった。	新たな組織を作るよりも、自治会内に福祉を担当する部署があり、そこと民生委員や自主防災等、見守り隊の目的にあった関係者、団体とどうつなげるかということを考えていくことが適当と思われる。懇談会の開催を通じて、地域の思いをしっかりと把握していきたい。
		全地域での活動と評価	×	結果として3地区での取り組みに留まり、期間も3年から1年未満ということで、もう少し期間をおいて様子を見ていくことが必要と思われた。	見守り活動や支援体制づくりの第1歩として取り組んだ名簿づくりであるが、地域住民や組織と協力して作ったことは大きな成果であった。個々の住民が将来やいざという時のために、自分たちの情報を地域に提供し、支え合いを必要としている点が、活動を通して、関わった住民が理解できたことは、体制づくりに向けた大きな成果です。こうした理解を、今後どう具体化していくかが課題なので、今後の状況をしっかりと見守って、フォローしていきたい。
		懇談会の実施	◎	区自治会、役員、民生委員、老人会等地域福祉を担う関係者に広く声をかけ、実施した。他の地域の活動や思いなどを聞いて、刺激を受け、ふれあいサロン活動に取り組む地域を出て、単に意見交換するだけでなく、思いもよらない成果があった。	意識の共有や活動が生まれたり、刺激につながる取り組みでもあるので、定期的に開催していきたい。
見守り活動推進に向けた体制づくり	見守り活動推進に向けた体制づくり	地域見守り隊の養成	×	市内で「地域見守り隊」の組織ができなかったため、養成までつながらなかった。	区・自治会や福祉団体の単位で、見守り活動を目的とした組織・体制づくりを進めていくことで、地域福祉への理解、担い手の確保するなど地域全体の活動として盛り上げ安心して暮らせる地域づくりにつなげようとした。しかしながら、趣旨はわかるももの、各地域に自治運営や体制などもあり、すぐに取りかかるのは難しく、懇談会や研修会等を通じて地道に周知をはかり続けて、各地区の状況にあわせた形を今後は模索していきたい。
		緊急時の支援体制づくり	△	安否を確認した時、地域内でどのように動くのか、また福祉機関とどのように関わるかなど体制づくりはできなかった。しかしながら、福祉課題を抱える世帯を地域役員が発見し、自治会が機関につなげたケースが出てくるなど、見守り活動を通じて自然と体制づくりにつながるような機運になった地域も出てきたことは大きな成果であると感じた。	緊急時支援に対する個々の意識は高いものの、なかなか地域として、組織的に取り組むまでには雰囲気づくりが必要で、そのあたりを民生委員や関係者と協力して、取り組んでいきたい。

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
見守り活動の推進	要配慮者の把握	要支援者の把握方法の検討と実施	○	名簿づくりという形で要配慮者や世帯状況を把握する取り組みを行えた地区は3か所と少なかったが、関係者と話し合い、理解し合いながら、実施できたことは、貴重な経験となった。 実際に活動した地域で呼びかけた個人や各世帯から個人情報の提供があった割合をみると、半分以上の提供があった。個人情報の関係で、身近な住民への情報提供に対し心配する人が少なく、ここ近年の問題の取り上げ方から肯定的にとらえる傾向、特に高齢者の世帯は関心が高かった。	友愛活動以外で、緊急災害時支援を目的とした場合でも、関心のある地域や団体で申し入れがあれば、この経験を生かして取り組みを進めていく。 個人情報の習得に関してなかなか難しい状況において、有効的なのはカード等を作り、趣意書を同時に配付をし、任意で収集する方法であると考え。手間はかかるものの、本人の意思表示のもと、やり方によっては円滑な支援等につながる情報の取得や関係が深められるので、関心のあるところについては、協力していきたい。
		個人情報の管理と扱い方についてのガイドラインの作成	×	名簿づくりを行った3つの地域において、その管理を第一と考えたので、自治会や老人会、民生委員・児童委員など関係するもので意見を交わし合いながら、適正に行われているので、ガイドラインを作るにいたるまでの取り組みとはならなかった。	ガイドラインについては、府社協でリーフレットが作成されているので、こうしたものも活用しながら活動や考えに基づいて適正に進めていきたい。
	日常的な見守りの推進	ふれあい給食サービス事業の充実	○	定期的な日常の見守り活動について、地域との連携のもと実施することができた。受給者との会食や役員との懇談の実施により、事業についての理解につなげることはできたが、意見の収集については一部の参加者や掲示板での収集にとどまった。	地域により、給食サービスの取り組みにおける尺度も様々であり、引き続き、見守りを実施する中で意見の収集と、受給者の基準等についても調査、検討を進めることが重要と考える。見守りという組織、体制を図示化する等することで、各事業間でも統一して取り組んでいくことがいけるものとする。
		ふれあいテレフォンサービス事業の充実	○	20年度当初はネットワーク作り以前に、活動における共通ルール等がないことによる活動のしづらさやマンネリ化、モチベーションの低さ等の課題があった。まず活動のルール作り等の基礎の整備から始めるとともに、研修・交流会の開催を重ね、活動の充実を目指した。ボランティアと利用者の関係づくりを意識した活動も4年経過し、ボランティアと利用者の信頼関係も深まり、会話の内容・活動時間ともに充実したものになっている。しかし、緊急時のネットワークづくりに着手できていないため、引き続き取り組んでいきたい。	利用者の減少が課題になっているが、要因として利用にあたってのサービスの効果が見えにくいことや、利用者の生活の多様化に伴うニーズの変化が考えられる。そのため、利用者のニーズを把握し、ボランティアのどのような活動が可能であるかを見直し、サービスに反映させ、有効性を明確にしていくことが大事なのでと考える。
		声かけ、訪問活動の推進	○	高齢者の孤立による孤独死や熱中症等の問題が社会的にも取り上げられ、予防やその対策の周知により、意識や活動が高まった。	こうした意識をさらに高め、日常的、継続的な活動につなげていくことが課題である。古くから集落を構成する地区では、隣人、世帯状況について長年の日常的な付き合いから関係ができており、今回働きかけている「見守り」という形のものはある程度できている。地域の状況(地域分析)にあわせて、現状、将来、見守りをはかるのが適切と思われる地域に対して、意識的に推進をはかっていきたい。
		見守り連絡会の開催	×	見守り活動に取り組む所が少なく、進展中で「連絡会」まではつなげられなかった。	組織や活動が増え意見交換などのニーズが高まる等、条件が整った時に実施していきたい。
	緊急時、災害時の互助体制づくり	災害時の支援・連絡体制づくりの検討	△	名簿づくりなどきっかけはつくれたが、体制づくりまではいけなかった。	災害が起こったときの対策も考えて、計画にあげた。ここ近年、未曾有の自然災害が起こり、地域での支援体制の必要性が言われているので、こうしたケースを周知し、日常的、継続的な関わり、福祉活動へとつなげていきたい。

【基本目標2】支えあいの心と担い手づくり

基本計画の柱	実施計画		これまでの振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
ボランティアの育成と確保	ボランティア活動の広報と啓発	多様な広報媒体の活用	△	社協だより、市の広報、ホームページ等を活用し啓発を行った。特に社協ホームページでは、新着情報としてタイムリーな情報が得られるよう更新のタイミングに気をつけた。	社協ホームページについては随時更新を行い、最新の情報提供を行う。これまでの広報媒体以外にも有効なPRな方法を検討する。
	ボランティア活動のきっかけづくり	ボランティアグループと連携しての講座の開催	○	登録ボランティアグループが主体的に実施する養成講座等について、支援を行った。ただし、固定化されたグループの実施に留まった。	幅広く多くのグループが主体的に企画・実施できるよう働きかけを行っていく。
		大学と連携したボランティア事業の推進	×	若い世代の生活実態やボランティア活動に関する意識を調査するためアンケートを実施した。集計結果から具体的な事業が実施できなかった。	若い世代を対象としたボランティアプログラムを検討する。
		男性を対象にしたボランティア養成講座の開催	△	男性(シニア)のボランティアを始めるきっかけとなるような養成講座を実施した。参加者の一部は実際のボランティア活動につながったものの、総体的に受講者が少なかった。	参加してみようと思える魅力的な講座づくりを行い、実際にボランティア活動をはじめるきっかけとなるよう工夫する。
	活動先の受け皿づくり	ボランティアグループへの加入促進に向けた取り組み	○	田辺中央図書館の来館者をターゲットにギャラリーをお借りして「京田辺市社協ボランティアセンター活動展」を開催した。ボランティアグループの活動の様子を展示し、ボランティア相談を受け付ける等、ボランティア活動について知ってもらい、活動へ繋がった。	たくさんの方に見ていただいたものの関係者の方も多く、これまで関心がなかった方や興味はあってもきっかけが無かった方へのPR(呼びかけ)をさらに強化する必要がある。
		個人ボランティア活躍の場の充実	△	個人ボランティアの活動の場として、グループホームの園芸福祉ボランティアの養成を行った。既存の個人ボランティアについては、依頼に基づいて調整を行ったものの啓発が不十分であった。	個人ボランティアが活躍できるボランティアプログラムを構築していく。登録済みの個人ボランティアについては、活動の場が広がるよう啓発等を行っていく。

基本計画の柱	実施計画		これまでの振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
ボランティア活動基盤の整備とコーディネート機能の向上	ニーズ把握と地域課題の掘り起こし	ボランティアとの意見交換会の開催	△	ボランティア連絡協議会の代表者会議に参加し、意見集約を行った。また、「京田辺市社協ボランティアの集い」を開催し、意見交換の場を設けたが、課題を出し合い共有することに留まった。	ボランティアの課題だけでなく、地域課題についても意見を出し合える場を設ける。課題を共有したところから、具体的な課題解決に向けた検討や協議を行っていく。
		ボランティアニーズルートの確立	○	ボランティア啓発パンフレットを作成し、行事等で配布することで啓発を行ったが、地域の懇談会や集まりの際に配布し、周知をはかることができなかった。	地域にボランティア活動の周知をはかることで、ニーズとボランティア活動者をつなげる。ニーズ把握には、関係者各機関との連携強化、体制づくりが必要。
	コーディネート機能の充実	ボランティアコーディネーターの資質向上のための研修	○	京都府社協等が実施するボランティアコーディネーターを対象とした研修会に参加し、理解を深めると共に他市町村社協職員との情報交換を行った。また、宇治市で行われた全国校区・小地域福祉活動サミットでは企画委員として携わり先進事例について、学ぶことができた。	引き続き、研修会等に積極的に参加し、ボランティアコーディネーターに求められる資質の向上を目指す。また、他市町村社協職員との情報交換をはかり、地域課題解決等の手法を学ぶ。
福祉教育の推進	体験型福祉啓発事業の実施	社会福祉施設体験学習事業の内容の充実	○	同志社国際中学・高等学校や田辺高等学校へ案内を行い、参加生徒の拡大を行なった。また、プログラム内容も充実を図り、振り返り会の実施をすることで、体験にとどまらず考える時間を設け、充実感を持てる内容となるように発展させた。	安定して継続できているが、内容については、状況に応じた変化が必要だと思う。
		福祉協力校事業の内容の充実	△	各年、ほぼ全校からの助成金の申請を受けている。しかし、内容としては、助成金をするに留まっているため。	福祉協力校の活動報告会の実施や研修会などを行い、福祉協力校としてどのような内容で行なって欲しいかを学校側に明確に伝えるように努め、福祉協力校として活動を積極的に進めてもらえるよう協力し、次世代の担い手育成に取り組む。

【基本目標3】きずなのある関係づくり

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
ボランティアグループ及びボランティア連絡協議会への支援、活動活性化に向けた取り組み	ボランティアグループの組織強化	ボランティアセンター機能(グループ支援)の充実	○	登録ボランティアを対象に、組織づくりのための講座や活動に活かすための研修を実施した。	引き続き、ボランティア活動の活性化や組織強化につながるような内容の講座を実施していくと共に、活動の幅が広がるよう関係づくりをはかる。
		ボランティアグループ等活動助成金の交付	○	助成金の交付にかかる新たな交付基準として、一般助成と特別助成を設け、各グループの実情に応じて助成した。	ボランティアグループの登録数は増加傾向にあり、限られた財源を有効に活用できるよう適正な助成金の交付を行っていく。
		当事者団体とボランティアの関係づくりとその推進	○	障害者の交流会に、日頃関わりのあるボランティアも参加していただき、互いに交流を深めることができるような企画づくりに努めた。	対象や分野の垣根を越えて、関係を深めることができるよう内容を工夫していく。
		ボランティアリーダー養成講座の充実	×	ボランティアリーダーの育成につながる講座を実施できなかった。	ボランティアグループ支援の取り組みの一つとして、スキルアップ研修のテーマで設け実施していく。
	ボランティア連絡協議会の組織強化	地区ごとの交流会や情報交換のための交流会の開催	△	「京田辺市社協ボランティアの集い」を開催し、ボランティア同士の情報交換を行うことができた。ただし、地区ごとの交流会は実施することができなかった。	「京田辺市社協ボランティアの集い」については、参加者からも他の活動を知ることができ有意義だった等の意見があり、引き続き実施していく。地区ごとの交流会については、実施に向けて検討が必要。
		研修会の開催	○	ボランティア連絡協議会と共催で管外研修を実施し、見識を深めると共にボランティア同士の横のつながりも深めることができた。	ボランティア同士の横のつながりを重視しながら、魅力ある研修を企画し実施していく。
		ボランティア連絡協議会への助成金の交付	○	ボランティア連絡協議会へ助成金の交付を行った。	助成金を交付するだけでなく、活発な事業の推進に向けて働きかけを行っていく。

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
当事者団体の活動と組織化の支援	会員の拡大、組織化の支援	交流会等仲間づくりの活動の推進	×	現在会員の方々の交流は、日々の活動や定期的な交流の実施により、概ね組織として機能している。しかし、組織の会員拡大に向けて、チラシを作成する他に具体的な策を検討できなかった。	他市町村の当事者団体や組織の話聞くことで、会員拡大につながる具体的な策を検討する。
	当事者の自主的、主体的活動や地域に向けた取り組みの支援	当事者団体による活動支援	○	当事者団体の活動に対して、ボランティアによる支援は概ねできた。	今後活動の活性化に伴い、様々な内容の支援が必要とされる。それに対して対応していくことが求められる。
		当事者団体活動助成金の交付	△	報告書類の提出より事業内容は報告されているが、文書のみでの報告なので事業内容を把握できていない部分もある。	助成金の報告書類の中で、事業内容が明確になるよう、写真や領収書の添付を徹底する。
社協と関係機関、団体との連携	福祉施設との協働事業	高齢者の閉じこもりの予防と仲間づくりの活動の推進	△	市内全施設とはいかなかったが、ある施設から隣接する畑の耕作活動の依頼を通じて、ボランティアの確保と施設利用者との関係づくりなどにつながった。	施設の高い専門性を地域に還元、貢献できるようなものを、施設や地域に提案していく。
福祉施設と地域との関係づくり	福祉施設と地域との関係強化	要支援内容の把握と関係づくり	×	見守り活動の推進を具体化していく中で、把握や支援活動に関して福祉施設の役割を活かしたものが展開できるかと思っていたが、そうした展開まで進まず、想定していたところまでできなかった。	
企業の社会貢献との連携	企業との関係づくり	市内各企業等への働きかけ	△	働きかけはできなかったが、市内事業所を中心としたチャリティー活動の収益を寄付する等の貢献事業が展開されている。	こうした活動を地域に周知し、底上げをはかっていきたい。
		社協だよりの配布	△	賛助会費、共同募金への協力があつた企業に対して、社協だよりの配布を20、21、24年度に実施した。	社協だよりの送付と併せてアンケートを送付し、感想等を求める活動を実施する。また賛助会員や募金協力のない企業に対しての働きかけを具体的に検討する必要がある。
	大学との関係づくり	同志社大学・同志社女子大学との関係づくりの推進	×	災害ボランティアの取り組みに関して、働きかけを行ったが、継続性の問題から調整できなかった。	各分会でのふれあいサロン活動や本会の福祉事業において、同志社大学等の学生のサークルに出演を依頼する等要望はあるので、具体的な活動を模索と関係づくりを進めていきます。

【基本目標4】安定した生活づくり

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
市社協福祉サービス事業の充実	デイサービス事業の充実	利用者サービス内容の充実	○	<p>個別機能訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTに来所してもらい利用者が行っている運動の内容を職員が説明して疾患別に個別のアドバイスを得た。 ・機能訓練にも意欲向上がみられる。 <p>-----</p> <p>個別レクリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習字、パズル、数字盤、カラオケ、編み物、外出など利用者のレベルに応じたレクリエーションができています。 ・利用者の意欲向上を目指した作品を考案、提供している。 <p>-----</p> <p>スリーA認知症予防ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー、サブの役割が定着してきた。 <p>-----</p> <p>予防ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手、足、頭を使って楽しく参加できている。 ・効果も見られ継続することで利用者の意欲を引き出せている。 	<p>利用者の個別の要望に応えるために京田辺市の地域リハビリテーション山城北圏地域包括支援センター事業を活動していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が利用者に声かけを増やし意欲を持って参加してもらおう。 ・定期的に機能訓練事業を見直し意欲向上をめざす。 ・時間がなかなか取れない。意欲のない方の取り組み方を検討していく。 <p>・良い評価が出ているので、これからも午前中レクリエーションとして定着する。</p> <p>・社協のサービスの取り組みとして更にスキルアップしていく。これからのやり方について検討していく。</p> <p>・その他、ボランティアの受け入れを積極的にしていく。傾聴ボランティアや独居の方の見守りボランティアの方々ともデイサービスとして関わっていく。</p>
		職員の研修会の開催	○	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理の意識が高まってきた。 ・事業所外研修を全員で共有した。 ・書籍を購入する等介護知識のレベルアップにつながった。 ・職員の研修会は毎月の職員会議に実施できた。 ・事業所内の書籍で知識を深める機会が持てた。 ・認知症ゲーム「スリーA」のリーダー、サブの役割について書籍や研修から学べた。 ・スリーAの研修会でスリーA方式の理念やゲームの仕方を学び、実習できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自然災害について危機意識を高めていく。 ・高齢者の転倒・誤嚥等についても研修していく。 ・各職員興味のある研修に参加できるようにする。 ・引き続き職員の介護技術の向上についての研修に参加する。 ・22年度に震災について研修を受けたので、引き続き定期的に避難訓練を実施する。常磐苑は避難所に指定されていることから火災だけでなく震災時も想定した具体的な対策や対応について考え、計画する必要がある。 ・認知症ゲーム「スリーA」の研修を充実させていく。 ・具体的にはリーダー、サブリーダーの役割について今までしてきたことの疑問点等を解決していけるような研修。
			△	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の研修実施に充分時間を取れなかった。 ・定期的な避難訓練を実施したが具体的な対策や行動予測がとれなかった。 	

基本計画の柱	実施計画		これまでの振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
市社協福祉サービス事業の充実	ホームヘルプサービス事業の充実	福祉サービス事業の充実	◎	利用者さんが安心して日常生活が送れるように、ニーズの把握に努め、日々のヘルプ業務に取り組めた。	ヘルプ業務としては、日々、福祉サービス事業の充実に努められているので、今後はヘルプ活動以外の部分で地域へ福祉サービス(身体介護の技術や認知症への対応等)の提供(情報提供や技術伝達)に取り組みたい。
		ヘルパーの研修会の開催	◎	毎月の合同会議への出席率は上がってきている。事業研修外研修への参加や、事業所内における伝達研修も、テーマに沿って実施できた。	地域への介護技術や情報を発信していくためには、ヘルパー自身の資質向上やさらなる情報収集が必要。これまで以上の積極的な事業所外研修への参加や、事業所内の学習会、また外部講師を招いたテーマ別研修等、自己研鑽や意識向上に取り組む。
		関係機関との連携の推進	◎	ヘルプセンターとして日々の業務(ヘルプ活動)における、利用者へのケア向上のための関係機関(ケアマネ・た事業所・市役所・医療機関等)との連携は概ね実施できた。 連携がうまくいかなかったケースにおいても、その都度改善に向けての取り組みができた。	ひとり暮らしの方においては、業務(介護保険)としてのサービスにおける連携に留まらず、利用者を取り巻くインフォーマルなサービスの部分においても連携を取り、住み良い、安心できる環境づくりに努める。
	介護予防事業の充実	介護予防事業の推進	○	認知症サポーター養成講座の実施回数としては、前年度と横ばいであった。またこれまで活動しておられないキャラバンメイトに、活動してもらう機会をつくることができなかった。おたっしや応援事業は新規に参加した地域が2ヶ所あり、地域と連携しつつ、介護予防を推進することができた。	出前講座の広報を行い、小グループへの講座開催を行う。また小学校への出前講座を充実させる。おたっしや応援事業については、これまで参加していた地域は継続しつつ、新規地域を増やし、より幅広く介護予防の考えを伝え、参加者の方が実践できるようにしていく。
	ケアプランセンターの充実	職員の研修会の開催	◎	毎週1回のミーティングを継続し、事例検討は定期的ではないが、何か問題があったときに実施し、情報を共有している。	困難ケース等について介護支援専門員が一人で抱え込むのではなく、個々の職員が、積極的に事例を課内で取り上げ、他の職員と処遇の検討や情報の共有を行っていく。
		関係機関との連携の推進	◎	医療機関や各関係機関とも密な連絡や相談を実施しつつ、ケースについての対応を考えることができた。	今後も関係機関との連携を密にし、ケースにとってより必要なサービスや援助方法を考えていく。

基本計画の柱	実施計画		これまでの振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
市社協福祉サービス事業の充実	ふれあい福祉相談事業の充実	専門相談員体制の充実	○	様々な相談に応じ解決の方向へ繋げられる体制づくりが出来ていると思われる。	より市民の方に応えられるように体制については検討を重ねていきたい。
		相談委員の研修の開催	○	研修会の開催により委員の知識や対応の向上につながり、相談者に対しても余裕を持って出来ている。	研修内容がマンネリ化しないように引き続き検討していく。
		総合相談事業に関する講演会の開催	△	他の事業とも兼ね合わせ検討していく必要があった。	総合相談事業での相談内容等を踏まえることと社会福祉大会と併せて検討していきたい。
	福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）の充実	専門員・生活支援員の研修会の開催	○	利用者の対応も多様になっているので、研修会を開催することは、今後の支援のためには重要であった。	南部地域の社協と合同講座を開催する事で、この事業の推進と関係機関との連携並びに生活支援員の研修も出来ているので、今後も参加しながら、市社協として改善点等が必要であれば検討していきたい。
		関係機関との連携体制の推進	○	この事業を通して関係機関と連携を取る事ができ、利用者と一緒に支援することが出来た。	
各団体と連携した福祉活動の推進	社会参加、文化的な活動への支援事業の推進	当事者団体と連携した福祉援助活動の推進	△	買い物支援、読み書き支援ともに、当事者のニーズに応え切れていないのが現状である。ニーズを把握するための話し合いの場を持ったが、現状で実施できる要望ではなかった。	支援をしていく中で、ボランティアの力は十分にあるので、実施内容のところでどこまでニーズに対応できるかだと考える。できるだけ利用しやすいサービスを構築していく必要がある。
		社会参加、地域参加促進のための環境づくりに向けた取り組み	△	点検調査活動の実施方法について検討する中で、委員会の中で部会を設置し実施することが確立しつつあり、また改善の提案についても一部成果としてあがってきているところもある。	現状の方法で定期的に、また継続的に実施できるように推進する。実施内容について、実のあるものにするため、協力をいただく関係団体等への協力を積極的にお願していく。

【基本目標5】福祉を進めるための基盤強化

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
財政の強化と充実	自主財源の確保	社協会員への加入促進	△	平成21年(41.4%)、平成22年度(39.4%)、平成23年(38.9%)と加入率は減少している。賛助・特別会員の減少が要因の一つと考えられる。また、賛助や特別会員になるメリットは何かを求められる声もあり、会費の必要性や使い道など市民にわかりやすく十分周知することができなかったのではないかと。	本会の一番の自主財源であるので、「社協とは…」について、地域の役員のわかりやすく説明し、会費納入によって資格や権利が生じるものではないのでうまくPRして、会員になることの目的を理解してもらい、協力を依頼する。また、会費の用途については出来るだけ詳しく市民に周知する。また、新しい自治会もできているので働きかけを行い、加入促進につなげていく。
		ボランティア基金の運用	○	経済状況が不安定な中、適正かつ安全な方法で基金を運用し、財源を確保した。また、ボランティアグループ助成金交付における新たな交付基準を設け、有効に活用した。	今後減少が予想される財源の確保に努め、基金の用途についても必要に応じて見直しを行う。
		共同募金会活動の推進	△	平成21年(5,540,729円)、平成22年度(5,326,888円)、平成23年(5,201,654円)と募金額は年々減少している。全戸配布のチラシや、社協だより等で啓発を続けてきたが、区一括募金や一件当たりの募金額の減少が要因の一つと考えられる。	赤い羽根募金の配分金の用途をもっと周知し、市民に募金活動の重要性を理解してもらえるように、目に見える配分を行う(形で残るもの)など内容を検討する。また、受配者の方へも配分金で実施されている事業であることをPRしてもらう。
		地元企業への啓発	△	共同募金事業の職域募金の普及のため、市内事業所へ周知を働きかけるも、経済情勢の厳しさからなかなかこうした支援につながりにくくなっている。	粘り強く働きかけ、協力をえられるよう出来る限り取り組んでいきたい。
	公費・民間助成の確保と活用	公的機関への助成の要望	○	市から地域福祉の振興のための補助金(地域ふれあい福祉推進事業補助金)を継続して受けることができ、ふれあいサロン活動などを市民福祉活動の推進に対して、継続的に安定して支援することができ、活動が広がっていった。	市民への社協活動への理解と会員加入の促進をはかっていくと共に、小地域単位での活動の支援や推進をはかっていくためにも、これまでとおりの支援をお願いしたい。
		民間助成の活用	○	厳しい経済情勢の中、ボランティアに対する十分な支援が厳しいため民間助成の案内や、本会においてもリフトカー事業等福祉援助の整備に関して活動するなどした。	これからも厳しい状況が続くことが想定されるので、情報収集をはかり、周知、活用していく。
わかりやすい広報・啓発活動の推進	市民向けの広報・啓発	社協だより、ホームページ等の内容の充実	△	読みやすい広報誌を作成するため、「地域レポート」や「クロスワード」など新コーナーを作成した。クロスワードの応募や事業の申し込みの対応等から、市民の反応は想像以上であった。ホームページの更新を綿密にできていない。	新コーナーを継続的に設置することや必要に応じて新たな記事を作成するなど、引き続き世代を問わず読みやすいものを作成することを目標とし、社協の啓発に努める。ホームページの更新をリアルタイムに実施する。

基本計画の柱	実施計画		これまでを振り返って		
	事業の柱	具体的な事業	目標の達成度	前項の理由	第2次活動計画に向けて改善すべき点等について
組織・事務局体制の強化	社協組織の強化	専門委員会の役割や機能の充実	△	各委員会において事業の見直しや、第1次活動計画に基づく取り組みについて協議、検討された。	各委員会において、各々の役割は明確化しており、専門的に担当する事業について、協議、取り組みを進めていただく。
		小地域福祉活動に関する専門委員会の設置	×	小地域福祉活動の振興をはかるために専門委員会の設置について検討したかったが、メンバーの構成や役員任期の問題等があるため、具体的に進めることができなかった。	小地域の振興策などについてはかかる場合は支部長会において進めていきたい。
	役職員の資質向上と体制の強化	専門性、意識・知識を高めるための研修会の開催	○	待遇やAEDなど業務に従事するにあたり常時心がけなければならないといけないこと等、職員の意見も考慮しながら研修会を催した。	常に市民の立場にたった活動、サービスの提供に努めていくための研修をこれからも実施していく。
		サービス調整チーム会議の充実	△	チーム会議を中心に職員研修を企画したり、文書管理や保存について、また各センターからの苦情対応について共有する機会として定期的実施してきたが、年度後半は話し合うことができなかった。	サービス調整チームの在り方、必要性について考えていきたい。
市とのパートナーシップの構築	市への提言	市への提言	△	第2期計画の策定の前に、本会で行った地域懇談会の内容や中間評価を提供した。その後、その内容について担当者と懇談し、その際に市への提言内容について意見した。	第2次活動計画の中で、総括や実情把握の取り組みの中で、提言するところをまとめていきたい。
	市との連携強化	市との懇談会の開催			市担当課と地域福祉振興のため、必要に応じて話し合いの場を求めていく。
		地域福祉推進に対する取り組みの支援	○	「地域ふれあい福祉推進事業補助金」として、地域や市民福祉活動への振興に対する補助を受けることができた。	「地域ふれあい福祉推進事業補助金」は地域福祉活動の振興に欠かすことができないものである。第2次活動計画で振興策をまとめ、今後も継続して支援が得られるよう、地域と一体となって取り組みを進めていく。
地域福祉活動計画の着実な実施	地域福祉活動計画の進捗状況の把握と評価	理事会、企画委員会等での定期的な活動状況の報告	△	理事会の開催にあわせて、年度ごとの評価をまとめきれず報告ができない年度があった。	理事会で報告出来ない場合も、郵送で送付するなど、各年度ごとの事業計画にも反映されるところがあるので、必ず報告する。
		地域福祉活動計画推進委員会の設置と進捗管理・評価の実施	◎	年度ごとに実施計画を中心に年間の活動目標や振り返りを行った。また、中間年には重点事業を中心に評価を行い、様々な立場の委員の方から、アドバイスなどをいただいた。自身が進めたものを自ら分析と反省をし、第三者に評価、意見を頂戴することによりいろいろな見方ができ、先を見越したものを意識し、着実に物事を進めようという意思も働くので、効果的な手立てだと考える。	すべての内容を評価、協議するには項目が多く、互いの意見を交換する時間がなかなか持てなかった。実施計画の内容、実施計画の項目を整理する等、合理的な計画の見直しを第2次活動計画の策定にあわせて進めていきたい。